

ジャパネット杯 平成27年度 第39回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男 C

男子・女子 回戦 準々決勝・準決勝・決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 A コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名																		
浦和学院	23	<table border="0" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td>10</td><td>—</td><td>13</td></tr> <tr><td>13</td><td>—</td><td>11</td></tr> <tr><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td colspan="3" style="text-align: center;">7mTC</td></tr> </table>	10	—	13	13	—	11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7mTC			24	県立岩国工業
10	—	13																				
13	—	11																				
—	—	—																				
—	—	—																				
—	—	—																				
7mTC																						

準々決勝、両チームともに緊張からか動きがかたく、あまり点が入らないスタートだった。そんななか、前半5分までに県立岩国工業の7番栗栖の3得点をし、6分過ぎまでに県立岩国工業が5対2となった。対する浦和学院もそこから4連続得点などで一時は逆転した。しかし、13分過ぎに浦和学院の退場をきっかけに再び県立岩国工業が逆転をし、20分までに3点差がついた。その後は、両チームともに攻め切れなかったり、ミスをするなどしてあまり点の入らない展開となり、県立岩国工業が13対10とリードして前半が終了した。

後半に入り、シュートを決めきれなかったりミスをしたりする県立岩国工業に対し、浦和学院はミドルシュート、サイドシュート、速攻を確実に決め、15分過ぎまでに逆転をして3点差をつけた。しかし、そこから浦和学院のミスが目立つようになり、23分過ぎには県立岩国工業が逆転をして2点差をつけた。その後浦和学院が同点まで追いついたが、28分過ぎから県立岩国工業の7番栗栖をきっかけに2得点をあげ、最後は県立岩国工業が24対23で激戦を制した。

2016年 3月 27日

記載者氏名 眞瀬田 英雄

ジャパネット杯 平成27年度 第39回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男d

男子・女子 回戦 準々決勝・準決勝・決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 B コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
県立香川中央	24	9	18	法政大学第二
		15	11	
		7mTC		

試合は序盤から激しい展開を見せる。立ち上がり先取点をとったのは法政第二。2分法政第二は7mT

で追加点をあげる。一方の香川中央も3分9番寺西が得点。双方激しく攻めあう、白熱の試合内容。

激しく攻め堅く守りまったく互角と言っていい序盤の試合展開。

香川中央は果敢に攻撃を繰り返し、得点していくが、一方の法政大学第二も堅い守備と要所要所で

得点をあげ、試合のイニシアティブを香川中央に渡さない。16番キーパー高橋を中心とする堅守から繰

り出される攻撃によって得点を積み重ねていく。前半を終わっての得点差は9点。

後半も法政第二の堅い守備と攻撃で得点していく。一方の高松中央も積極果敢に攻撃を繰り返してい

く。高松中央4番小島は闘志あふれるシュートで得点、チームの反撃の勢いを盛り上げる。しかし、

前半同様要所要所で法政第二は得点をあげ、高松中央に容易に追撃の機会を与えない。

高松中央は4番小島のシュート、10番川村の気迫あふれるシュートで反撃を行うが、そこまで。

法政第二が前半のリードをいかし、堅い守備と安定した攻撃で勝利をおさめた。

2016年 3月 27日

記載者氏名 上田 義人